

2020年度一般入学試験問題

国 語

(2月8日)

開始時刻 午後1時00分

終了時刻 午後2時00分

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この冊子は22ページです。落丁、乱丁、印刷の不鮮明及び解答用紙の汚れなどがあった場合には申し出てください。
3. 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。
 - ① 受験番号欄
受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしてください。正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
 - ② 氏名欄
氏名とフリガナを記入してください。
4.

三

 と

四

 はいずれか一方を選択してください。両方解答した場合は高得点の方を合否判定に使用します。
5. 解答は解答用紙の解答欄にマークしてください。例えば、

10

 と表示のある問いに対して◎と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の◎にマークしてください。
(例)

10	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)
----	-----	-----	-----	-----	-----
6. 問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいません。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

勇気や自己犠牲に価値を置いた時代への反動からか、戦後は安全・安心、そして個（核家族）の幸福をひたすら追い求める社会となりました。そうした「人命は地球よりも重い」社会では、住宅の安全は絶対です。住宅のキョウキユウ側も、それを旗印にして社会の中に大きなチホを占め、利益を享受してきました。それゆえ、住宅が土石流によって破壊され、宅地の液化化や地すべりによって住宅が傾き崩れるといった事態は、あつてはならないはずなのです。

しかし、こうした建前は、戦後の高度経済成長の熱気の中で早くも綻びを見せます。たび重なる台風や豪雨で宅地が崩れる事態が相次いだのです。そして現在は、少し大きな地震のたびに宅地の地すべり、液化化が発生し、災害後に「危険家屋」と判定される住宅が後を絶たない状態です。こうした宅地の被害は、時として多くの犠牲者を出しました。また、生命は奪われないまでも、相当数の住宅が、損壊しました。

宅地が損壊すると、生き残った被災者は、経済的に相当困ることになります。わが国では、宅地をローンで手に入れている場合が多いからです。そして、宅地は私有財産なので、その損壊が引き起こす、さまざまな二次被害の責任も個人が負わねばなりません。そのため、大きな災害が起きると、個々の住民と地域社会はさまざまな問題を抱えることとなります。例えば、被災後の担保価値の下落、二重ローンなどにより、住宅を建て替えられない被災者が続出しました。そしてそれらが、住民のキカンを妨げ、復興の足かせになるといったことが起きたのです。しかも、建物に加えて、本来は宅地の復旧（擁壁や盛土の修理）と周辺への補償も個人が負担しなければなりません。過去の災害では、こうした、宅地の私有に伴う責任も露わになったのです。

しかし、こうした宅地被害が引き起こすさまざまな社会的影響を含めて、宅地の異常事態を的確に表す言葉が、今までありませんでした。そこで、こうした事態を「宅地崩壊」と呼ぶことにしたいと思います。戦後、しばらく続いた地震の空白期は終焉しました。さらに、極端気象の時代になって、毎年のように異常な豪雨が発生しています。また、高度経済成長期から半世紀を経て、造成地の盛土や擁壁の老朽化が目立つようになりました。つまり、災害の誘因が高まっているのに対し、それを受け止める宅地の災害耐性は逆に弱まっているのです。これを受けて、今後は広範囲に大量の宅地崩壊が起きやすくなるはずだと、都市住民にとって、かつてない「宅地崩壊の時代」が始まったのです。

わが国の大都市の多くは、大きな川の河口付近から始まりました。広い平地があつて、海や川が他地域や内陸との通路になったからです。しかし、土地には限界があります。そのため、最近まで、わが国の都市は X 膨張を続けました。しかし、その膨張が丘陵地や山地の内部にまで及ぶようになると、地すべりや土石流などによって住宅地に土砂が襲来するケースが出てきました。地すべりや土石流は、地質時代から繰り返されてきた自

然現象に過ぎません。人間とはあまり関係なく、それぞれの場所で「斜面プロセス」と呼ばれる悠久の風化・浸食・運搬過程を繰り返しているのが、うかつにも、そうしたサイクルの現場に宅地を作ったため、土砂に襲われるのです。こうした宅地は、都市のほうから見ると、膨張の最前線である都市の外縁部に位置しています。そこで、この種の宅地崩壊を「都市外縁型」と呼ぶことにしたいと思います。

一方、日本の住宅は、なぜかひたすら平地を求める本能があります。そのため、膨張前線の内側の区域では丘を削り、谷を埋めて平地を作り出してきました。そのため、今では多くの宅地が谷埋め盛土の上でできてしまいました。また、がけぎわでは少しでも平地を増やすため、不用意に盛土が張り付けられる場合が多いのです。要するに、平坦化の過程で不安定な斜面が作り出されてきたわけです。しかし、こうしたリスクの高い斜面は、住宅や構造物によって覆われ、今ではそのリスクが外見ではわかりにくくなっているのが実態です。しかし、極端な豪雨や強い地震があると、こうしたリスクが露わになって、町の中で宅地被害が起きるといわけです。こうした現象は、すでに完成された（ように見える）都市の内部に特有の現象です。そこで、この種の宅地崩壊を「都市内部型」と呼ぶことにしたいと思います。

土砂災害の被災家族を調べてみると、江戸時代ぐらいたままで遡れるような本家が被災した割合は少なく、分家の割合が極端に多いという事実が、わが国の山地集落ではかなり普遍的に見られます。一族から分家が生まれて新たな屋敷を構える際、集落内で相対的に安全な場所は、すでに本家筋で占められていることが多いのが普通です。そのため、分家は相対的に災害が起きやすい場所に位置することになり、いつかは土砂災害に襲われる運命にあるというわけです。社会的弱者ほど災害に遭いやすいという「災害の（社会的）階層性」が、山地集落では一族の歴史とオーバーラップしているのです。実は、同じような社会現象は、スイスやオーストリアなどヨーロッパの山地集落でも見られます。人間と災害の関係性は、洋の東西を問わないのかもしれませんが。

^F そういう視点で見ると、都市の斜面災害こそ分家災害の最たるものだと思います。都市の宅地崩壊が起きた場所を調べてみると、そのほとんどが郊外団地の山ぎわ（縁辺部）や谷埋め盛土などで起きています。こうした場所に住んでいる人々の多くは、核家族であり、新たな宅地を求めてきた人々です。いわば、彼らは Y にほかなりません。つまり、都市の宅地崩壊は、現代版の「分家災害」と言うべきかもしれません。

（釜井俊孝『宅地崩壊 なぜ都市で土砂災害が起ころのか』による。設問の関係上、本文を改めたところがある。）

問一 傍線部ア、イ、ウの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の選択肢から、それぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号

は、アが 1、イが 2、ウが 3。

ア キョウキユウ

- Ⓐ 遭難者のキユウゴに向かう
- Ⓑ 肩のつけねがダツキユウする
- Ⓒ 食事の席でキユウジする
- Ⓓ キユウジョウを助ける
- Ⓔ 議論がフンキユウする

イ チホ

- Ⓐ 帰りはトホにする
- Ⓑ ホを張って出航だ
- Ⓒ 筆のホサキを整える
- Ⓓ クリームでホシツする
- Ⓔ 容疑者をタイホする

ウ キカン

- Ⓐ 首都がカンラクする
- Ⓑ 混雑がカンワする
- Ⓒ インカンを押す
- Ⓓ 血液のジュンカンがよくなる
- Ⓔ カンレキの祝いを行う

問二 傍線部A「こうした建前」を説明したものとして最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

4。

- Ⓐ 「人命は地球よりも重い」という理想
- Ⓑ たとえ被災しても住宅は安全であるという自信
- Ⓒ 住宅が傾き崩れる事態はまず無いという前提
- Ⓓ 住宅の安全は絶対であるという原則
- Ⓔ 安全・安心そして個の幸福を追い求めるべきだという理念

問三 傍線部B「経済的に相当困る」の内容として本文に書かれていないものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

5。

- (a) 宅地を被災前の状態に戻すためにさまざまな修理を行うこと
- (b) 借り入れのためにあらかじめ提供していたものの価値や価格が下がること
- (c) 被災前に住んでいた宅地のローン返済がまだ残っていること
- (d) 被災地の復興が進まないため宅地に戻れず、生活費を稼げないこと
- (e) 宅地が被災することで起きた周りの人や物に対する損害を賠償すること

問四 傍線部C「宅地崩壊」が起きる理由として筆者が述べていることは何か。最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

6。

- (a) 宅地が作られた場所が河川や海の近くで地盤が柔らかかったこと、また土地を平らにするために谷を埋めたりしたので、住宅を建てるには不向きな場所だったため。
- (b) 被災者は、宅地が損壊することで、その損壊を修理・補償するという支出を抱えたり、仕事を奪われたりといった大きな経済的負担を抱えることになるため。
- (c) 戦後は人命優先の時代になったが、実際には台風や豪雨で宅地が崩れる現象が後を絶たず、生き残った被災者は経済的に困り、宅地の損壊と経済的負担が連鎖するため。
- (d) 震度の大きい地震の増加と豪雪や豪雨といった極端気象の出現、その一方で、高度経済成長期から半世紀を経て被災地の復興に対する経済的支援の弱体化が見られるため。
- (e) 地震が起きやすい周期に入ったことと異常気象が頻発するようになったこと、その一方で、宅地用に作られた土地が時間の経過によって古く、もろくなっているため。

問五 空欄

X

に入る最も適切な語句を、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

7

。

- Ⓐ 純粹に
- Ⓑ 水平に
- Ⓒ 斜面に
- Ⓓ 急激に
- Ⓔ 鉛直に

問六

傍線部D「都市内部型」に該当するものは次の①～⑤のどれか。その組み合わせとして最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

8

。

- ① 丘陵地で起こる宅地崩壊
- ② 谷を埋めたところで起こる宅地崩壊
- ③ 土地を造成したところで起こる宅地崩壊
- ④ 山地の内部で起こる宅地崩壊
- ⑤ 広い平地で起こる宅地崩壊

- Ⓐ ①と④
- Ⓑ ①と②と④
- Ⓒ ①と④と⑤
- Ⓓ ②と③
- Ⓔ ②と③と⑤

問七 傍線部E「オーバーラップしている」の意味として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号

は、9。

- Ⓐ 重なり合っている
- Ⓑ 非常に近似している
- Ⓒ 因果関係にある
- Ⓓ 共鳴し合っている
- Ⓔ 共存している

問八 傍線部F「そういう視点」とはどういう視点か。最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

10。

- Ⓐ 人間と災害の関係性は洋の東西を問わないという視点
- Ⓑ 社会的弱者ほど災害に遭いやすいという災害の社会的階層性という視点
- Ⓒ 分家は土砂災害にいつかは襲われるという運命論的な視点
- Ⓓ 山地集落における一族の歴史と災害という視点
- Ⓔ 土砂災害の被災家族における本家と分家の割合という視点

問九 空欄 Y に入る最も適切な語句を次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、11。

- Ⓐ 「災害の（社会的）階層性」の最下層
- Ⓑ 都市における社会的弱者
- Ⓒ 都会に分家してきた人々
- Ⓓ 本家から追い出された分家家族
- Ⓔ 災害に遭うために引越してきた人々

二

の問題については、著作者より作品の二次使用について
許諾が下りていないため、掲載しておりません。

メ モ

試験問題は次に続く。

次の文章は「貝合」という物語の一節です。蔵人少将が、小舎人童をお供にそぞろあるきの途中、琴の音が聞こえる家をゆかしく思い、中をのぞいてみたいと思っている場面です。よく読んで後の問一〜六に答えなさい。

しばし「内aより人や」と心ときめきましたまへど、さもあらぬはくちをしめて、あゆみ過ぎたれば、いと好ましげなる童べ、四、五人ばかり走りちがひ、小舎人童、男おのこなど、をかしげなる小破子こわらこやうのものを捧たさげ、をかしき文、袖の上うでにうち置きて、出いで入る家あり。

「何わさずするならむ」と、ゆかしくて、人目見はかりて、やをらはひ入りて、いみじく繁すすきき薄うすの中なかに立てるに、八、九Aばかりなる女子おんなこの、いとをか

しげなる、薄色あかの袂あこめ、紅梅べんがなどみだれ着たる、小さき貝を瑠璃るりの壺つぼに入れて、あなたより走るさまの、あわたたしげなるを、をかしと見たまふに、

直衣なほしの袖そでを見て、「ここbに、人こそあれ」と、何心もなく言ふに、わびしくなりて、「あなかまよ。聞きこゆべきことありて、いと忍しのびて参り来たる人

ぞ。と寄りたまへ」と言へば、「明日のこと思ひはべるに、今より暇いとまなくて、そそきはんべるぞ」と、さへづりかけて、往いぬべく見ゆめり。

をかしければ、「何事の、さ忙おほしくは思さるぞ。まろをだに思さむとあらば、いみじうをかしきことも、人は得えてむかし」と言へば、名残なく立

ちどまりて、「この姫君と上うへとの御方の姫君と、貝合かひあはせさせたまはむとて、月ごろ、いみじく集めさせたまふに、あなたの御方は、大輔たひふの君、侍従じじゆうの

君と、貝合かひあはせさせたまはむとて、いみじく求めさせたまふなり。まろが御前は、ただ、若君わかしひとところにて、いみじくわりなくおぼゆれば、ただ今も

姉君あねぎみの御許もとに人やらむとて。まかりなむ」と言へば、「その姫君たちの、うちとけたまひたらむ、格子かうしのはさまなどにて見せたまへ」と言へば、「人

に語りたまはば。母cもこそこのたまへ」とおづれば、「ものぐるほし。まろは、さらeに物言はぬ人ぞよ。ただ、人に勝かたせたてまつらむ、勝fたせたてま

つらじは、心ぞよ。いかなるに。貝かひどもの結けち」とのたまへば、よろづおほえで、「さらば帰かへりたまふなよ、かくれ作りて据たてまつらむ。人の起き

ぬさきに、いざたまへ」とて、西の妻戸つまとに、屏風びやうぶ押し畳たたみ寄せたるところに据たて置おきを、「ひがひがしく、やうやうなり行くを、をさなき子をたのみ

て、見もつけられたらば、よしなかるべきわざぞかし」など思ひ思ひ、はさまよりのぞけば、十四、五うばかりの子ども見えて、いと若わかききびはなるか

ぎり十二、三さんばかり、ありつる童のやうなる子どもなどして、手ごとに、小箱こばこに入れ、物の蓋かきに入れなどして、持ちちがひ、さわぐ中に、母屋もやの簾すだれに

添ひへたる几帳きちやうのつまうちあげて、さし出でたる人、わづかに十三ばかりにやと見えて、額ひたい髪かみのかかりたるほどよりはじめて、この世のものとも見え

ず、うつくしきに、萩はぎ襲がさねの織物おりものの袿つぼね、紫苑しぞん色いろなど、押し重ねたる、頬杖つちづかをつきて、いとものなげかしげなる。

(『堤中納言物語』による。設問の関係上、本文を改めたところがある。)

(注) 1 小破子——「破子」は仕切りのついた食器。ここではその小ぶりなもの。

2 裃——童女が重ね着するための丈が短めの着物。

3 直衣——男性の平常服。

4 この姫君——八、九歳の女の子が仕えている姫。

5 上との御方の姫君——4の姫と貝合の勝負をする予定の姫。

6 貝合——貝の形や色のすばらしさを競って勝ち負けを決める遊び。

7 まろが御前——わたしの姫君。つまり、4の姫のこと。

8 若君——4の姫の弟君。

問一 傍線部ア、イ、ウの解釈として最も適切なものを、次の各群の選択肢からそれぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号

は、アが 21、イが 22、ウが 23。

① 静かにしなさい

② ああ、仲間がいるよ

ア あなかまよ

③ ああ、みつかったよ

④ あきらめなさい

⑤ 穴があつたら入りたい

イ 往ぬべく見ゆめり

① 去ってしまおうと思った

② 去ることができそうなようすだった

③ 去ったほうがましだと思った

④ 去ってしまいそうなようすだった

⑤ 去るにちがいないと思われた

ウ ひがひがしく、やうやうなり行くを

① 具合の悪いことに、だんだんなくなっていくが

② にくらしいことに、だんだんなくなっていくのを

③ 東のほうへと、だんだんずれていくのを

④ びっくりすることに、だんだんなくなっていくが

⑤ 非難されるように、だんだんなくなっていくが

問二 傍線部A「八、九ばかりなる女子の」の「の」と文法的に同じ使われ方をしている「の」を含む表現を、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記

号をマークしなさい。解答番号は、24。

- Ⓐ 箱の虫どもを取らせ名を問ひ聞き
- Ⓑ のたまふ声のいみじうをかしければ
- Ⓒ 白き扇の墨黒に真名の手習したるをさし出で
- Ⓓ 例の虫興じたまふとて
- Ⓔ 夢幻のやうなる世に誰かとまりて

問三 波線部f「人に勝たせてまつらむ」の「人」と同じ人物をさす「人」が含まれる表現を、波線部a～eの中から一つ選び、解答欄の記号を

マークしなさい。解答番号は、25。

- Ⓐ a 内より人や
- Ⓑ b ここに、人こそあれ
- Ⓒ c 人は得てむかし
- Ⓓ d 人に語りたまはば
- Ⓔ e さらに物言はぬ人ぞよ

問四 傍線部B「まるをだに思さむとあらば」というのは、具体的に蔵人少将のどんな思いから出たことばか、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記

号をマークしなさい。解答番号は、26。

- Ⓐ 走ってくる女の子が、わたしのことを頼りにしてくれればという思い
- Ⓑ 走ってくる女の子が、わたしのことを好きになってくれればという思い
- Ⓒ 走ってくる女の子が、忙しくてもわたしに会う時間をつくってくれればという思い
- Ⓓ 感動的なことをしてほしいと走ってくる女の子が、期待してくれればという思い
- Ⓔ 走ってくる女の子が、わたしのことを思い出してくれればという思い

問五 傍線部C「母もこそなたまへ」とあるが、具体的に母は女の子にどのようなことを告げていたか、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号を

マークしなさい。解答番号は、27。

- Ⓐ 知らないひとと話してはいけない。
- Ⓑ 姫君のことをだれかに話してはいけない。
- Ⓒ 素性不明のひとを頼りにしてはいけない。
- Ⓓ 誰かに姫君の姿を見せてはいけない。
- Ⓔ 勝負事に他人をまきこんではいけない。

問六 傍線部D「いとものなげかしげなる」は姫があれこれ思いわずらっているようすを表しているが、姫の思いにあてはまらないものを、次の選択

肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、28。

- Ⓐ 貝がたくさん集まるだろうかと心配している。
- Ⓑ 蔵人少将が助けてくれないのではないかと不安になっている。
- Ⓒ 勝負に負けてしまうのではないだろうかという自信のなさ。
- Ⓓ 弟の若君はどれぐらい頼りになるのだろうかと案じている。
- Ⓔ 対戦相手のほうにはいろいろな貝が集まったのだろうかと焦る気持ち。

四

次の文章を読んで、後の問一〜八に答えなさい。(設問の関係上、返り点、送り仮名を略したところがある)

天機闔闢^A、而吾不知其故^B。禹卿論^C書如^D是。吾聞^E而善^F之。禹卿之言又曰、「書之芸、^B東晋王羲之、^C至^D今且千余載。其中可^E数^F者、或^G数十年一人、或数百年一人。^B明董尚書其昌死、^C今無人焉。」^D非無為書者也。勤^E於力^F者、不能^G知^H精^I於知^J者、不能^K至^L也。禹卿作^M堂於所居之北^N。まさ^Oにこれのためになづけんとす。一日得^P尚書書^Q快雨堂^R。旧^S楹^T喜^U甚^V。乃懸^W之堂内^X。(後略)

姚鼐『惜抱軒文集』卷十四「快雨堂記」

(注) 1 禹卿——王文治の字。王文治は、清代の人。詩文、書画にすぐれた。

2 王羲之——東晋の書家。「書聖」と呼ばれる。

3 董其昌——明代の文人。書画にすぐれた。尚書は官職名。

4 楹——「篇」と同じ。作品のこと。

問一 傍線部A「闔闔」とは、開いたり閉じたりするという意味である。本文を読み、これの解説として最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、

解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、29。

- Ⓐ 王羲之のような天才が現れることは稀だということを説いている。
- Ⓑ 王羲之と董其昌と禹卿だけが天才で、ほかは凡才であるということを説いている。
- Ⓒ 実力と運とは、なかなかピッタリとはあわないということを説いている。
- Ⓓ まじめに精進していればいつの日か天から褒美がもらえることを説いている。
- Ⓔ 最初によい手本を得れば、それに応じて天から実力をつけてくれると説いている。

問二 空欄Bに入る語として最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、30。

- Ⓐ 寄
- Ⓑ 自
- Ⓒ 縁
- Ⓓ 依
- Ⓔ 因

問三 波線部C「且」の読みとして最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、31。

- Ⓐ まさに……す
- Ⓑ かつ
- Ⓒ もし
- Ⓓ ゆくゆく
- Ⓔ おおし

問四 傍線部D「数」の解釈として最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、32。

- Ⓐ 運命とする
- Ⓑ ひとつひとつ説明する
- Ⓒ 責め立てる
- Ⓓ しばしばする
- Ⓔ くだらないものとみなす

問五 傍線部E「非無為書者也」の読み下しとして最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

33。

- Ⓐ ひととしてしよをなすものなきなり
- Ⓑ なきにあらざるはしよをなすものなり
- Ⓒ しよをなすなきにあらざるものなり
- Ⓓ しよをなすなきものにあらざるなり
- Ⓔ しよをなすものなきにあらざるなり

問六 傍線部F「まさにこれのためになづけん」とす」をもとの漢文体に戻した時、最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマーク

しなさい。解答番号は、34。

- Ⓐ 当為之名。
- Ⓑ 当此為名。
- Ⓒ 将為之名。
- Ⓓ 将此為名。
- Ⓔ 正是為名。

問七 傍線部G「一日」の解釈として最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

35

Ⓐ 元旦

Ⓑ 一日中

Ⓒ 太陽の出ている時間

Ⓓ ある日

Ⓔ ごく短い時間

問八 波線部H「甚」の読みとして最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

36

Ⓐ なにかとす

Ⓑ いかんなり

Ⓒ はなはだし

Ⓓ うまし

Ⓔ ひどし